

# 〈論 文〉

燕市における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布

Distribution of the Dialectal Variation in Words for *Janken* used to Divide People  
Into Two Groups, in Tsubame City, Niigata Prefecture.

佐々木香織（ささき かおり）

新潟国際情報大学

キーワード：2 チーム分けジャンケン ウラオモテ 新方言

## 要旨：

本稿では、新潟県燕市内の中学 1 年生と 6 年生を対象にしたジャンケンの掛け声の調査から得られた約 650 人のデータに基づき、同市における 2 チームに分けジャンケン(グーパージャンケン)の掛け声の分布を記述した。その結果、分水中学校区では「ぐーちょ」類と並んでチョキとパーを使う「ちょーぱ」が使われ、燕中学校では、グーとチョキを使う「いしは一さ」が使われるなど、中学校区ごとに優勢な語形が異なることが分かった。西日本から入ったと思われる新方言「ウラオモテ」系の掛け声「うらうら うらうら うらおもて」は吉田中学校でのみ使われていることが分かった。また、「ウラオモテ」はジャンケンではないと考えている生徒がいたため「回答無し」が多くなったことも伺えた。出身小学校別の集計から、子どもの遊びの言葉は、小学校区ごとに調べることで、境界地域との連続性をより明確に捉えることができることも分かった。

## Abstract

In Tsubame City, Niigata Prefecture, there are various words for the *janken* games used to divide people into two groups. These include “*gūpa*”, “*chōpa*”, “*ishihāsa*” and “*uraomote*”. In particular, “*uraomote*” is considered to be a kind of a new dialect (*Shinhōgen*), conveyed from Western Japan, and it is interesting to research its development in Tsubame City. To this end, a survey of the distribution of these linguistic variations was carried out in Tsubame City. The subjects of this survey were approximately 650 students, aged between twelve and thirteen, from junior-high schools and primary schools in Tsubame City.

Based on the survey, distribution maps of these dialectal variations show that the dominant words differ between the school areas. For example, “*chōpa*” is used in Bunsui Junior-High School, “*ishihāsa*” is used in Tsubame Junior-High School and “*uraomote*” is used only in Yoshida Junior-High School. Looking at the questionnaire, some students did not regard “*uraomote*” as a kind of *janken* game to divide people into two groups. This is considered to be one reason why many of the

students wrote ‘no answer’.

In order to understand how words used primarily amongst children, such as in *janken* games, may spread across localities, it is more effective to examine the word use distribution in respect of each primary school area.

## 1. はじめに

2 チーム分けジャンケンとは、子どもが比較的大勢で遊ぶ際に行われるもので、成人後や改まった場面では使う場面がほとんどなく、子ども時代に覚えた掛け声を大人になってもそのまま使い続けることが多い。そのため地域の小さい言語集団の境界を探る指標として役立つと考えられる。また、親から子へ伝わるよりは、地域の保育園・幼稚園、学校等で遊びを通じて伝わる人が多い点からも、その土地独自の言い方が生まれやすく、広まりやすい。一方、転入生等によって、よその土地からもたらされた新語が一気に広まることもあり、ダイナミックな言語変化を観察する上でも興味深い。そもそも書き言葉や改まった場面で使うことが少なく、「全国共通語形」というものもはっきりしないため、「方言」という意識がない場合も多い。

新潟市では、中央区や東区などで「グーロ グーロ グーロッパ」の掛け声がすでに2世代に渡って使われており、若い世代での使用が広がっている。新方言といえるだろう。佐々木(2012)によれば、中央区に隣接する西区では「グーロ」系も使われているが、「グーパー グーパー グーッパ」などが使われており、同じ市内でも様々な変種が観察されている。

今回の調査対象の燕市でも、様々な特徴的な2チーム分けジャンケンの掛け声が使われていることが分かっている。新潟県内では上越市、柏崎市などで散見できる「ウラオモテ」系の掛け声も燕市で確認されており、一過性の流行語なのか、新方言として今後もさらに若い世代に広がっていくのか注目される。

井上(2007)の図 1-6 方言矯正の地図 (方言研究書の題名)によれば、新潟県は「矯正・改良・改善・修正、訛(り)・訛語・訛言・訛音・音訛」という語句を含むもの(『日本方言研究の歩み』による)が最も多かったことが分かる。しかし、現在の新潟市周辺については、井上(2007)が指摘するように、すでに方言は「娯楽」の時代へと移行している。「新潟弁」を聞くことができるラジオ局のポッドキャスト(注 1)や自動販売機(注 2)などからも、方言を楽しんでいることが伺える。地元出版社の若い母親に向けた育児関係の書名にも方言が使われている例がある(注 3)。

特にジャンケンの掛け声は、小学校区のような小さな集団ごとに様々なものがあり、その個性をむしろ積極的に楽しんでいるかのようなのである。それらが今後どのような消長をとげるのか観察することで、地域の方言意識や地元への帰属意識などを探ることも可

能だろう。本研究では、その基礎資料として燕市における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布を明らかにする。

## 2. 本稿の目的

本稿の目的は、新潟県燕市における 2 チームに分けジャンケン(グーパージャンケン)の掛け声の分布を記述することである。また、主に九州や関西地方で使用例が見られる掌と手甲を使った「ウラオモテ」系の掛け声が、燕市でも使われていることが明らかになった(佐々木 2012)ため、燕市のどの地域で主に使われているのか探り、この新方言の燕市における分布を明らかにすることも本稿の目的の一つである。

## 3. 調査データ

本研究の主なデータは、以下の表 1 のように燕市内にある 5 つの市立中学校のうち、燕北、燕、分水、吉田の 4 中学校の 1 年生全員と、今回調査できなかった中学校区内の 2 つの小学校、小池・大関両小学校の 6 年生全員を対象に行った普通のジャンケンと 2 チーム分けのジャンケンの掛け声についての調査データである。調査票(注 4)は 2013 年 3 月に各学校に郵送し、各学校の先生から生徒・児童に配布、実施してもらった。本調査によって燕市全域の 12,13 歳の児童・生徒の平均的な掛け声を示すデータが得られた。但し、ここでは主に 2 チームわけのジャンケンの掛け声を扱う。また、燕市に隣接する新潟市などのデータについては、佐々木(2012)による。

表 1 各学校の有効回答者数

| 学校名 (学年)    | 回答者数      |
|-------------|-----------|
| 燕北中学校(1 年生) | 46 名分     |
| 燕中学校(1 年生)  | 207 名分    |
| 分水中学校(1 年生) | 114 名分    |
| 吉田中学校(1 年生) | 226 名分    |
| 大関小学校(6 年生) | 21 名分     |
| 小池小学校(6 年生) | 49 名分     |
|             | 合計 663 名分 |

## 4. 2 チーム分けジャンケンの掛け声についての研究史

ジャンケン全般の掛け声に関する方言については、古くは『言語生活』152 号(1964.5、pp.70-76)誌上での、子どもの遊びに関することばの共同研究の呼びかけ以降、同 153 号(1964.6、p.88)、同 157 号(1964.10、p.93)、同 159 号(1964.12、p.94)などに記述が見られる他、子ども向けの方言に関する本(井上 2009)などでも取り上げられている。2 チーム分けジャンケンの研究については都染(1999)や山田(2007)などがある。特に都染(1999)によれば、1990 年代初頭に大阪や東京では使われていなかったウラオモテ系のグループ分

けの方法が、神戸の中年層で広がりを見せているとの報告がある。また、文献以外にも、甲南女子大学兼任講師の田中千晶氏ホームページには全国のジャンケンの掛け声が投稿され、県別にまとめられている(注 5)。このほか、ウィフリ調査団(注 6)、道浦俊彦氏の「ことば会議室」(注 7)、枚方つーしん「枚方グーパー分布図」(注 8)にも 2 チーム分けジャンケンの掛け声についての調査がある。

新潟県内の 2 チーム分けジャンケンに関するまとまった報告は佐々木(2012)以外にはないが、普通のジャンケンの掛け声を中心に調査した外山(1999)の「じゃんけんことば集」(P89-93)には、1993 年当時、柏崎地域(旧三島郡、刈羽郡、柏崎市、中頸城郡)の高校生の内省で、小中学校のとき(1980 年代)の 2 チーム分けジャンケンの掛け声として、いくつかの語形が報告されている。その中に、1993 年当時柏崎の高校生がグーパー系やグーチョ系の掛け声とともに、柏崎市内の中学校(東中、第五中、北条中、いずれも柏崎市の内陸側)では「ウラオモテ」を使っていた、との報告もある。「ウラオモテ」系の掛け声は、佐々木(2012)では燕市(旧吉田町)出身の大学生から「ウラウラ ウラウラ ウラオモテ」の使用が、そして上越市出身の大学生から「ウラオモテ アーエバ」の使用が報告されている(図 1 参照)が、外山(1999)の柏崎市での使用例との関連については明らかになっていない。

井上・鎌水(2002)には、「ウラオモテ」の項目があり、「神戸付近の若い世代」(で使われている)との説明がある。また田中(1999・ホームページ)からは、ウラオモテ系を使うという人が九州に多く、中年層にも使用者がいることや、山口、広島、岡山、兵庫でも使用者がいることがうかがえる。ただし、中高年層の投稿者が少ないため、使用者が多い九州で昔から使われていたのかについては不明である。さらに加古(2008)でも、使用者の年齢は不明だが、ウラオモテ系の掛け声が九州に多いことがうかがえる。

新潟県内では、燕市、上越市以外にも、佐渡の一部地域でウラオモテ系の使用があると聞いたが、これらが実際どのような掛け声で、どのような経路で伝播したかは、今後の調査をまたなければならない。

## 5. 燕市における中学校区別 2 チーム分けジャンケンの掛け声

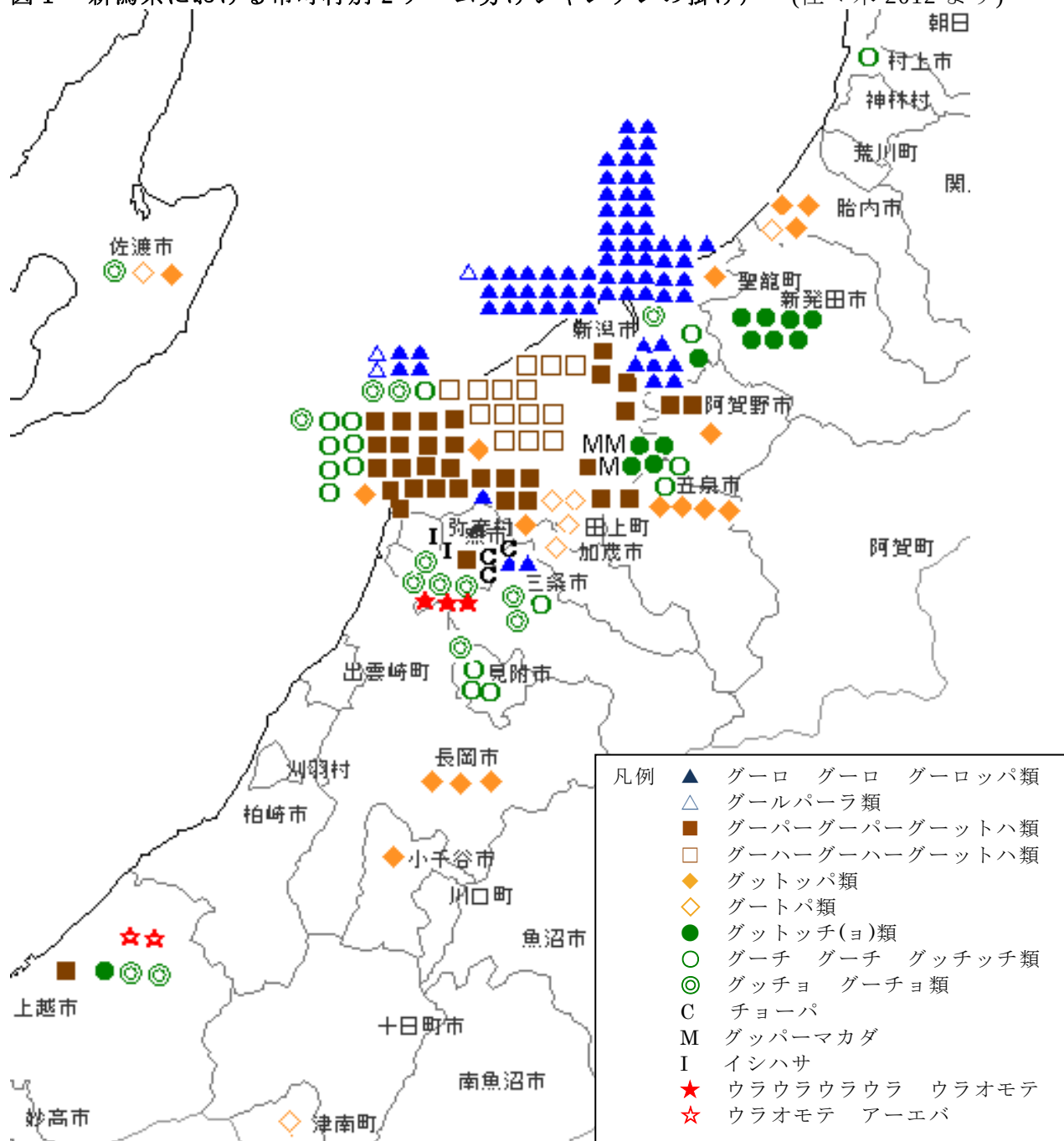
図 1(注 9)、図 2(注 10)から分かるように、燕市は北東に新潟市西蒲区と弥彦村、南に長岡市と、東に三条市と接している。また、この狭い範囲に「イシハサ」、「グーチョ」「チョーパ」「ウラウラ・・・」など、特徴的な掛け声が使われていることがわかる。佐々木(2012)では、燕市内におけるこれらの掛け声の分布はわからなかった。今回の調査では燕市全域を中学校区ごとに調査することで市内全域の掛け声の詳細な分布が明らかになった。

図 2 で示すとおり市内には現在 5 つの中学校区があるが、吉田中学校区は旧吉田町、分水中学校区は旧分水町で、2006 年 3 月に燕市合併した。もとの燕市域には中学校が 3

校ある。それぞれの中学校区は2から4の小中学校区からなっている。

図3-1～5は、中学校ごとに円グラフで各語形の割合を示したものである。但し、大関小と小池小のデータは小池中学校区を代表するものとして集計した。各語形の分類方法には9節に示す。

図1 新潟県における市町村別2チーム分けジャンケンの掛け声 (佐々木 2012 より)





ループに分ける方法。」という説明に加えて、『和歌山県橋本市で以前はグー対チーでわけていたのが、大阪通勤者の多い進行住宅地の子供たちからグー対パーで分ける方法が普及した。』(大阪大学のレポート田中 1992)」という記述が見られる。佐々木(2012)では、燕市に隣接する市区のデータが少ないため、どの語形がいつごろ、どのように普及したのかははっきりしない。

燕市で唯一「ウラオモテ」系の掛け声を使う吉田中学校の調査票のいくつかには、「じゃんけんではなくて、『裏表』や「じゃんけんではないけど」という補足説明が書き込まれていた。吉田中学校で「回答無し」がきわだって多かった理由の一つには、調査票の質問(注 4)を「2 チームに分けるじゃんけんの掛け声」としたため、「うらおもて」系の掛け声を使っている生徒の中には、「じゃんけんではない」と考えて何も書かなかった可能性もある。現に「じゃんけんで分けない」という答えもあった。さらに、吉田中の生徒で、「ぐーっとば」類を答えた生徒 15 人のうち、調査票に例として挙げた語形とまったく同じ語形を書いたか、「例と同じ」と書いた生徒が 12 人いた。実際、このような掛け声は佐々木(2012)では一例もなく、筆者が適当に作った例なのだが、2 チーム分けのジャンケンが思いつかず、例をそのまま写した可能性もある。ちなみに、回答者数が 207 名で、吉田中とほぼ同規模の燕中学では、「ぐーっとば」類と答えた生徒は 12 人いたが、例と同じ答えだったのは、2 名だけである。(他は「ぐーっとば」や「最初はグー、ぐーっとば」など)。調査票の質問のしかたを工夫すれば、もっと多くの生徒が「ウラオモテ」系を答えたかもしれないが、再調査は別の機会に譲る。

「ウラオモテ」系の具体的な掛け声は、「うらうら うらうら うらおもて」がほとんどで、「うらうらうら うらおもて」が次にやや多く、「うーら うーら うらおもて」「うらっと うらっと うらっとおもて」がそれぞれ 1 例あった。上越市出身の大学生が報告した「うらおもて あーえば」はなかった。

また「普通ジャンケン」は、初めに出すべき 2 種類を決めておいて普通のジャンケンの掛け声でチーム分けするものと、普通にジャンケンして勝ったほうと負けたほうで分けるものがあることも、調査票の書き込みから分かった。大学生を対象にした佐々木(2012)でも、約 200 人中、普通のジャンケンと同じ掛け声を答えた唯一の学生は燕市出身者だった。

旧吉田町では、今でも普通のジャンケンで、2 チーム分けをすることがあることが、今回の調査から分かった。2 チーム分けの際の決まった掛け声が定着していなかったことも、おそらく他所から来たであろう新しい「ウラオモテ」系の掛け声が入りやすかった要因だと考えられる。

図 3 中学校区別 2 チームわけジャンケンの掛け声の種類とその割合

図 3-1 燕北中学校 (有効回答者数 46 名)

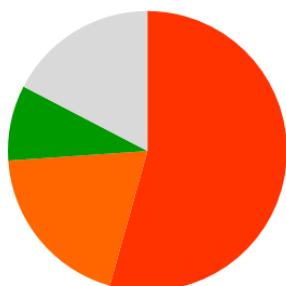
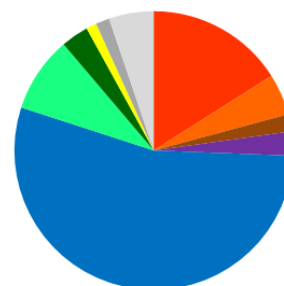
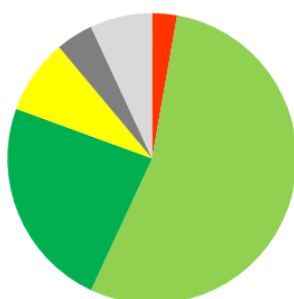


図 3-2 燕中学校(有効回答者数 207 名)

図 3-3 小池中学校区 (有効回答者数 70 名)  
(但し、小池小学校と大関小学校の 6 年生)

## 凡例 (図 3-1~5 共通)

- |          |         |
|----------|---------|
| ■ぐっとっぱ類  | ■ぐーっぱ類  |
| ■ぐーち類    | ■ぐーちーや  |
| ■ぐーちーぐ   | ■ぐーちょ類  |
| ■ぐーちょっぱ類 | ■ちょーぱ類  |
| ■うらうら類   | ■ぐーちーぱ類 |
| ■普通ジャンケン | ■その他    |
| ■回答無し    |         |

図 3-4 分水中学校(有効回答者数 114 名)

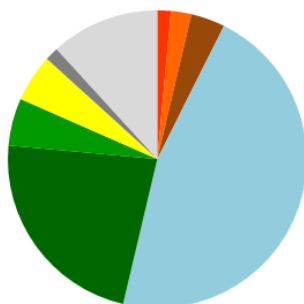
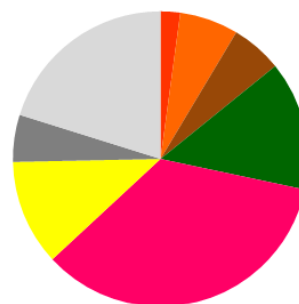


図 3-5 吉田中学校 (有効回答者数 226 名)



## 6. 燕市における小学校区別 2 チーム分けの掛け声の分布

次に出身小学校別に見ていく。出身小学校別の有効回答数は以下表 2 の通りである。但し、小池小学校、大関小学校は出身ではなく、調査時 6 年生の児童が対象である。学区外の中学校へ進学した生徒は他の 4 中学校を見る限り多くないので、大関小、小池小の回答は、小池中学校区の様子を表すと考えても問題ないだろう。

図 4 は学校ごとの回答者数に応じてグラフの長さを変えてあり、燕市では、どこでどのような掛け声が優勢か分かるようにした。



表 2 出身小学校別の有効回答者数 (但し、大関小学校と小池小学校は 6 年生)

| 中学校 | 出身小学校 | 有効回答者数 (のべ回答数) |
|-----|-------|----------------|
| 燕北  | 小中川   | 44 名(46)       |
|     | 松長    | 7 名(7)         |
| 燕   | 燕東    | 33 名(42)       |
|     | 燕北    | 25 名(26)       |
|     | 燕南    | 31 名(41)       |
|     | 燕西    | 99 名(120)      |
| 小池  | 大関    | 22 名(23)       |
|     | 小池    | 49 名(50)       |
| 分水  | 島上    | 16 名(19)       |
|     | 分水北   | 26 名(37)       |
|     | 分水    | 73 名(83)       |
| 吉田  | 吉田北   | 39 名(40)       |
|     | 吉田    | 91 名(93)       |
|     | 吉田南   | 70 名(72)       |
|     | 栗生津   | 24 名(28)       |
|     | 合計    | 649 名(727)     |

図 4 出身小学校別の 2 チーム分けジャンケンの掛け声

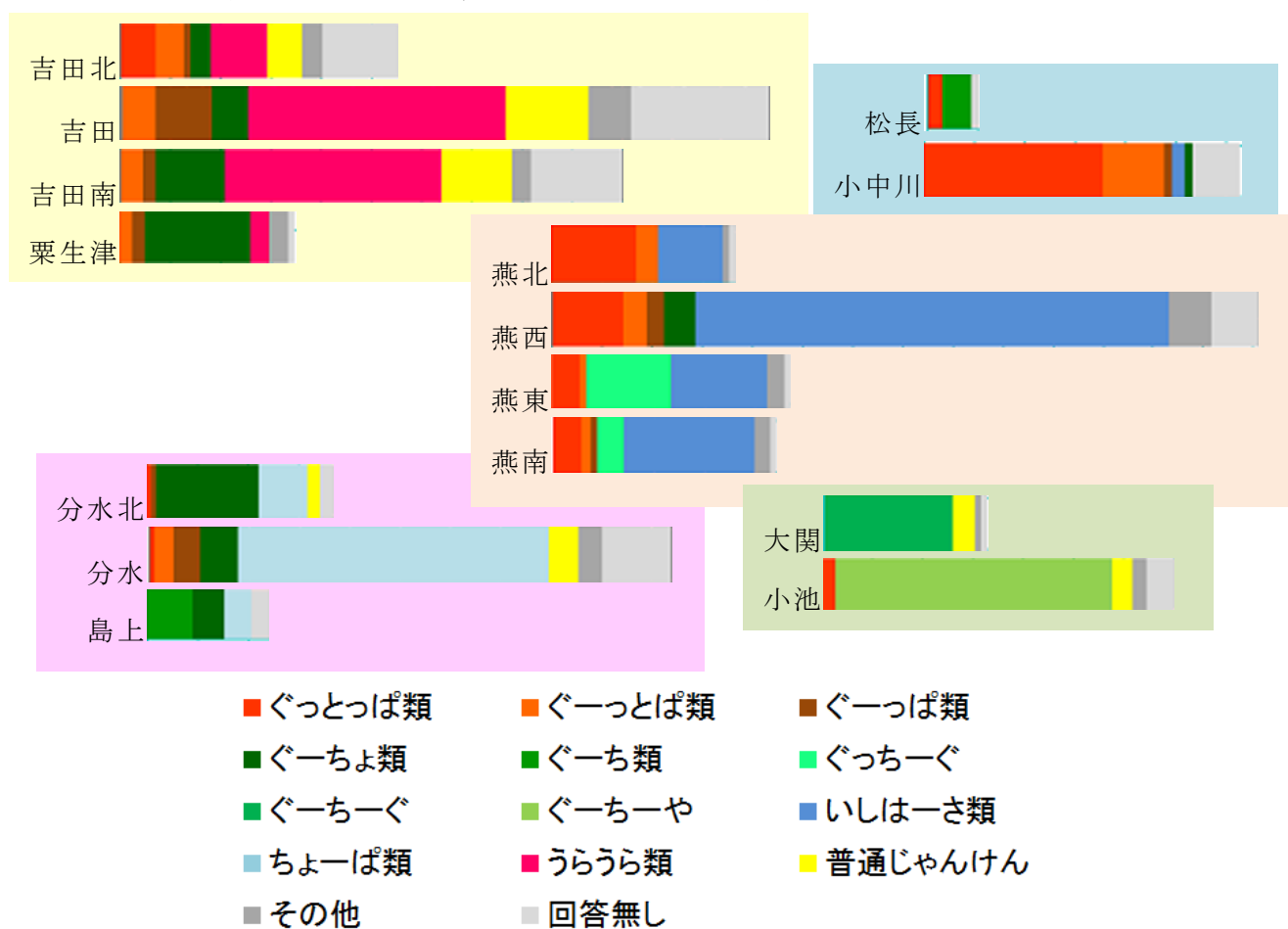


図 5 は燕市の地図(注 10)とともに、出身小学校ごとに各掛け声の使用率を円グラフで表わしたものである。円グラフの背景の色は中学校別になっている。図 5 から、出身小学校ごとにも、生徒の半数以上が使うと答えた優勢な掛け声が様々であることがわかる。吉田、吉田北、吉田南出身者では、50%を超える優勢な語形はないようにみえるが、5 節で述べたように、「回答無し」は「ウラオモテ」系である可能性も高く、「ウラオモテ」と合わせると、半数近くに上る。

地方では中学校区が広く、多くの小学校区から生徒が集まることも多いので、中学校ごとに集計をとると、ある小学校区で優勢な語形があっても、中学校で少数派になってしまうこともある。遊びの言葉は小学校区を単位に見たほうがより詳細な実態がわかる。

例えば、主に吉田中学校の生徒である吉田、吉田北、吉田南 3 小学校出身者のグラフは似ているが、同じ中学校区内の粟生津小出身者のグラフとは異なっている。吉田中学校に特徴的な「ウラオモテ」系も、粟生津小出身者に限れば少数派である。これは、吉田中学校区内でも粟生津小は一番近い吉田南小まで約 3.6km あり、吉田北小と吉田小、吉田小と吉田南小の間の距離(約 2.5km)よりもやや遠いということが影響しているかもしれない。

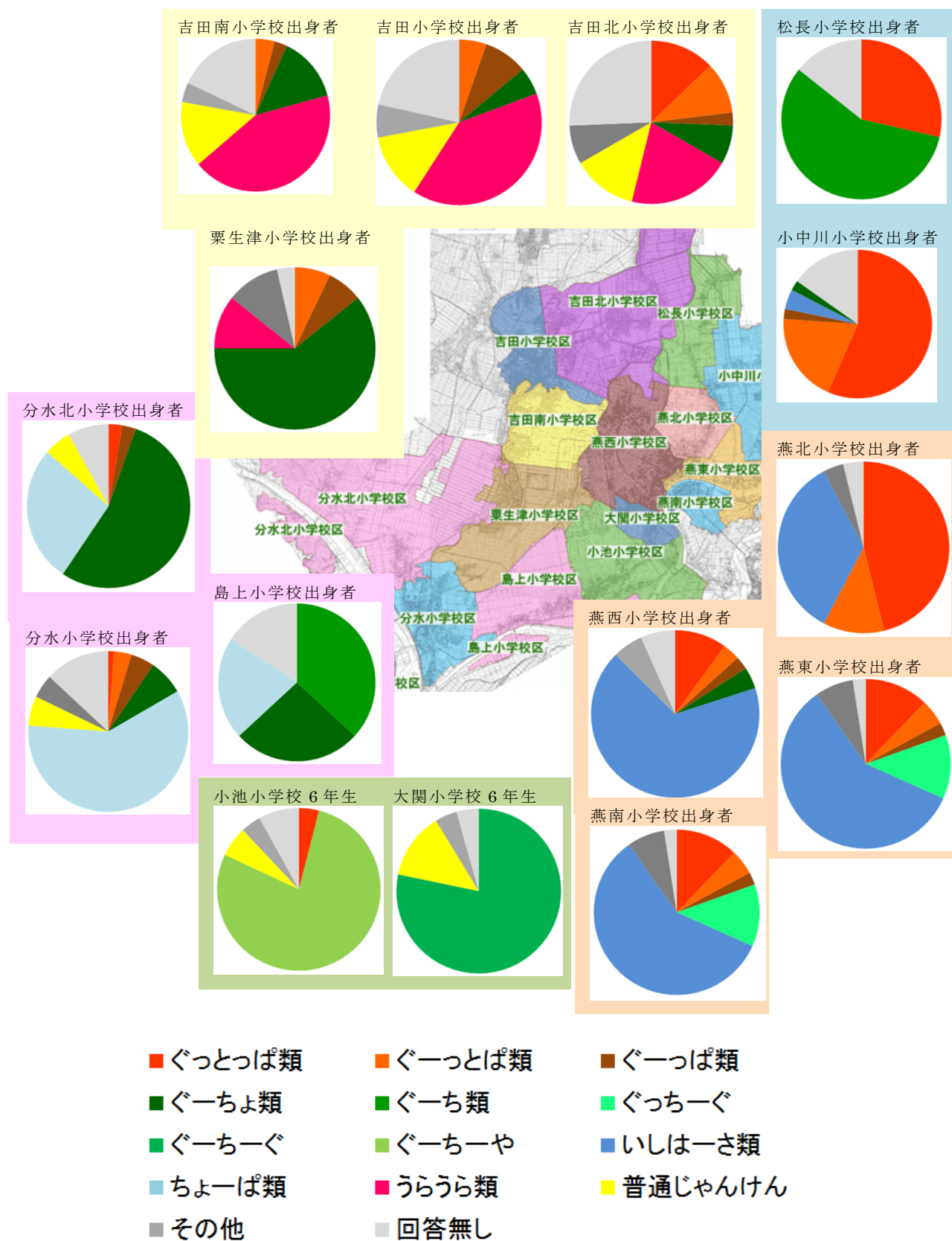
また、主に燕中学校の生徒である、燕西、燕東、燕南の出身者別グラフは似ているが、燕北小の出身者のグラフは他の 3 校とは少し違って「ぐっとっぱ」類が多い。燕北小も他の 3 校とは線路の反対側の若干離れたところにある。

以上のように、小学校区ごとに調べることで、境界地域との連続性を、面的に詳細に観察することができる。

## 7. 燕市とその隣接地域における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布

ここでは、図 6(注 11)から、燕市と隣接する地域との連続性を概観する。図 6 は佐々木(2012)と今回のデータを、ぐーぱ一類(「ぐーっぱ」や、「ぐっとっぱ」などグーとパーを使うもの)、ぐーろ類(「ぐーろっぱ」などグーとローパーを使うもの)、ぐーち類(「ぐーち」や「ぐーちょ」などグーとチョキを使うもの)、分水中学校区のちょーぱ類(「ちょーぱ」などチョキとパーを使うもの)、燕中学校区の「いしは一さ」類、吉田中学校区の「うらおもて」類、普通のジャンケン、その他の 8 つに大別し、市区ごとにその割合を円グラフで示した。但し、佐々木(2012)のデータは全体で 209 人分しかなく、それをさらに市区ごとに集計したため、図に示した市で最もデータが少ない見附市、加茂市は 5 人、最も多い新潟市西区では 35 人分というように、データ数にばらつきがある。各円グラフの大きさは変えていないので、注意が必要である。また、調査対象者の年齢や時期も違う点も注意が必要である。

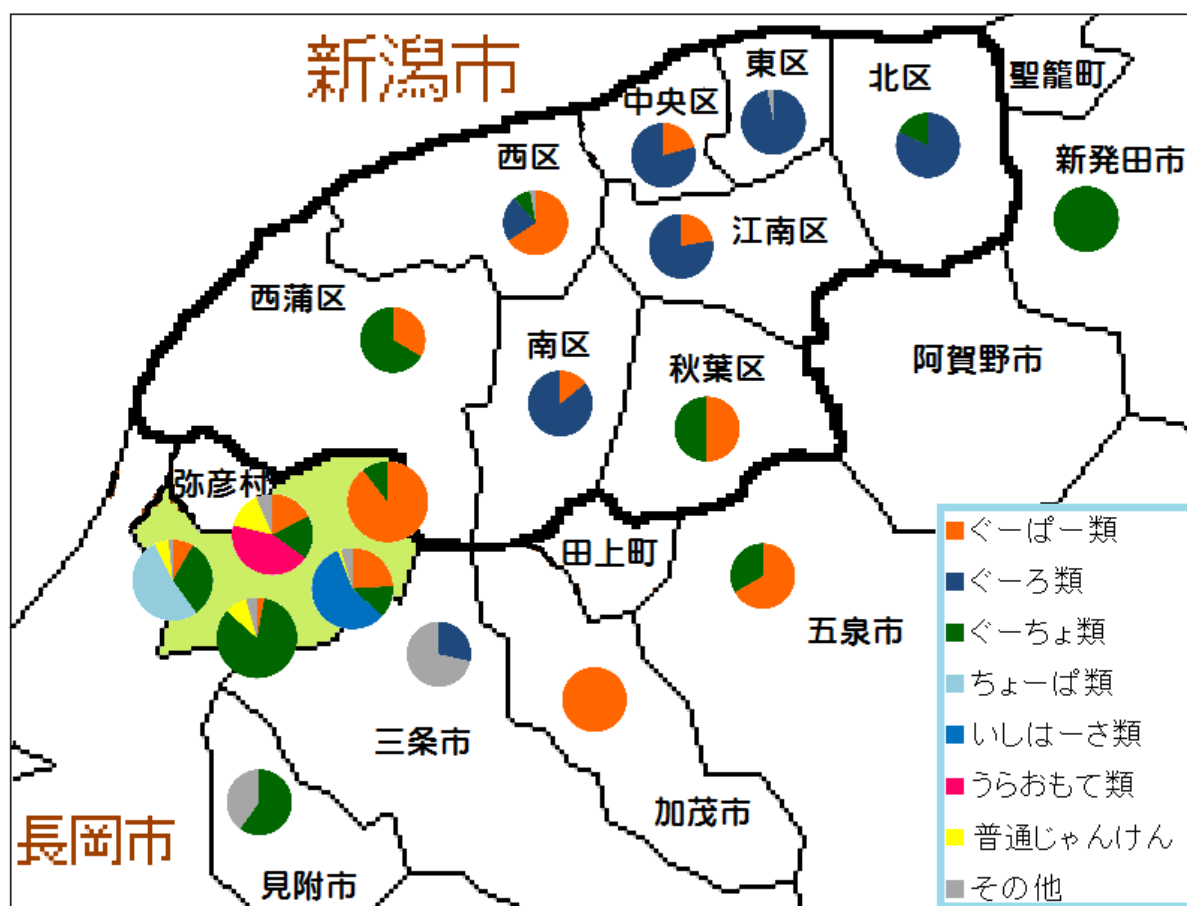
図5 出身小学校別2チームわけジャンケンの掛け声の割合



燕市の面積は約 110 平方 km で新潟市の 7 分の 1 程度しかないが、およそ中学校区ごとに、上に述べた特徴ある 2 チーム分けジャンケンの掛け声が使われていることが分かった。また新潟市やその周辺で優勢なグーとパーを使うものが燕市でも使われているが、地域によって浸透度には差があり、新潟市からの距離だけが要因ではないことが分かった。

図 6 からごく大雑把に見ると、下越の広いグーパーのエリア(注 12)に、新潟市北区から南区のほうへ向かってぐーろ類が広がり、新潟市の南端を東西にグーとチョキを使うものが帯状に広がっているように見えるが、特に西蒲区、南区、秋葉区のデータをさらに集めて検討する必要があるだろう。また、燕市に隣接する三条市は、佐々木(2012)では 7 人のデータが得られたが、みなそれぞれ微妙に違うユニークな回答だったため、「その他」の割合が多くなってしまった。三条市については、さらに調査が必要だろう。

図 6 燕市とその周辺地域の 2 チーム分けジャンケンの掛け声 市区別の割合



## 8. 今後の課題

今回の調査対象は燕市内の中学校だけだったが、西に隣接する弥彦小学校出身者（吉田中に在学）が「ウラオモテ」系を使うと答えていた。中学に入ってから「ウラオモテ」系を使うようになったのか、弥彦村でも使われているかを調べ、「ウラオモテ」系の広がりについて明らかにしたい。また、隣接する新潟市西蒲区や三条市などのデータが特に少ないので、今後さらにデータを集めたい。

外山(1999)によれば、柏崎周辺でも「グーチョ」系や「ウラオモテ」系の掛け声が使われていたという。今の柏崎市での分布を探ることで、「ウラオモテ」系や「グーチョ」系の伝播状況がさらに明らかになるだろう。

この調査では、主に自分が使っているジャンケンの掛け声をたずねただけで、他のジャンケンの掛け声についてどう思うかや、自分が他の人と違ってした場合どのように掛け声を決めるのかなど、意識面での調査はできなかった。今後の課題としたい。

## 9. データ

調査票から得られた各語形は、以下の表のように分類し、図に示した。各語形の区切りは「／」で示してある。

| 分類名              |            | 回答語形                                                             |
|------------------|------------|------------------------------------------------------------------|
| 図 6 では<br>ぐーばー類  | ぐっとつぱ<br>類 | 最初はぐー ぐっとつぱ／ぐっとつぱ                                                |
|                  | ぐーっとぱ<br>類 | ぐーっとぱ／ぐーばーじゃんけん ぐーっとぱ*                                           |
|                  | ぐーっぱ類      | ぐー(っ)ぱ／ぐーば ぐっぱ／ぐー(っ)ぱ ぐっぱ ぐーっぱ／ぐー(っ)ぱ ぐー(っ)ぱ ぐっぱっぱ               |
| ちょーば類            |            | ちょーば／ちょっぱ                                                        |
| ぐっちょっぱ類**        |            | ぐっちょっぱ／ぐーちょっぱ                                                    |
| 図 6 では<br>ぐーちょー類 | ぐーちょー類     | ぐー(っ)ちょ／ぐー(っ)ちょ ぐっちょ ぐっちょ／ぐー(っ)ちょぐっちょ ぐっちょっちょ／ぐーちょーぐーちょ          |
|                  | ぐーち類       | ぐー(っ)ち／ぐっち／ぐーっち ぐーっち ぐっちっち<br>／ぐっちーぐ／ぐーちーぐ／ぐーちーや／                |
| いしは一さ類           |            | いしは一さ／いしはさ／いしはらさ                                                 |
| 図 6 では<br>うらおもて類 | うらうら類      | うらうら うらうら うらおもて／うらうらうら うらおもて／うらおもて／うーらうーらうらおもて／うらっとうらっとうらっとうらおもて |
| 普通ジャンケン          |            | 最初はぐー じゃんけんばい／最初はぐー じゃんけんばん                                      |
| その他              |            | ぐーとぱーでわかれましょ／せーの<br>(書き間違いらしきものは省略。集計では「その他」に)                   |

\*調査票で、2 チーム分けの掛け声の例として挙げた語形であり、5 節で述べたように、写しただけの生徒もいたかもしれない。

\*\*今回のデータ中 10 例あったが、3 チーム分けの掛け声だという指摘もあった。

## 10. おわりに

末筆ながら、年度末の忙しい時期に突然お願いした調査にも関わらず、快くご協力くださった燕北中学校、燕中学校、分水中学校、吉田中学校、大関小学校、小池小学校の皆様は心から感謝の意を表したい。

また、このたび、この論文集への投稿を勧められなければ調査をすることもなかったかもしれないところを、卒業してもなお怠惰な筆者を叱咤し、調査に駆り立ててくださった井上先生の益々のご健康をお祈りするとともに、深甚の感謝を捧げたい。

注

(注 1) BSN ラジオ 今すぐ使える新潟弁 by Podcast [http://www.ohbsn.com/radio/programs/niigata\\_ben/](http://www.ohbsn.com/radio/programs/niigata_ben/)

(注 2) 左下の写真は、商品を買うと新潟弁が聞ける自動販売機。(2013 年新潟市中央区にて筆者撮影。) KIRIN は新潟の方言「じょんのび」を名前につかったビールも製造している。井上(2007、p63)に写真がある。



(注 3) 右上の写真は、ちやい文々氏の『どーいんソレ……!! 妊娠・出産はじめての育児編』(新潟日報事業社)の表紙である。「どーいん」は、「一体どういうこと?」というような意味の新潟弁。

(注 4) 配布した調査票は下に示す。実際のサイズは A5 で、末尾に調査者名、所属、連絡先を記載してある。

(注 5) 田中千晶氏ホームページ <http://homepage3.nifty.com/docchi/janken-p.htm> 全国のジャンケンの掛け声が投稿され、県別にまとめられている。

(注 6) ウィフリ調査団 <http://www.freeml.com/wefree/say/gupa/?sid=982397f2ecc699e73ec69640ccb96023>

(注 7) ことば会議室(道浦俊彦氏) <http://kotobakai.seesaa.net/article/8173628.html>

(注 8) 枚方つーしん「枚方グーパー分布図」 <http://www.hira2.jp/archives/50282762.html>

(注 9) 佐々木(2012)のために <http://www.craftmap.box-i.net/japan.php> Craft Map 都道府県別地図の白地図を利用して作成したものである。元は白黒版だがカラーに変更した。

(注 10) 燕市防災ハザードマップ小学校区マップ <http://www.city.tsubame.niigata.jp/life/002000029.html> 但し、図 2 はこのページの小学校区の地図に、筆者が黒字で中学校区と中学校名、青字で周辺の市の名前を書き加えた。

(注 11) BEPPER ちゃんねる新潟県白地図 2008. 4. ~ <http://www.8toch.net/gappei/map.cgi?pref=15&date=20080401> の白地図を利用して作成。

(注 12) 図 1 から、胎内市(新発田市の北)、長岡市もグーパー類が使われていることが分かるが、合併して市域が広いこともあり、3, 4 人からの回答で代表させるには無理があると考え、図 6 には入れなかった。

#### < 調査票 >

新潟県のじゃんけんの掛け声について調べています。皆さんが学校で友だちとじゃんけんするときの掛け声を教えてください。

1. 普通のじゃんけんの掛け声を教えてください。 最初から省略しないで書いてください。  
例：さいしょはグー、じゃんけんぽい
2. 2つのチームに分かれるときのじゃんけんの掛け声を教えてください。最初から省略しないで、書いてください。  
例：ぐーぱーじゃんけん めーっとぱ
3. 出身小学校を教えてください。 \_\_\_\_\_市立 \_\_\_\_\_小学校
4. 自分と違う言い方のじゃんけんを聞いたことがあったら、教えてください。

どんな掛け声でしたか? \_\_\_\_\_

普通のじゃんけん・2チームわけじゃんけん どちらですか? (○をつけてください)

いつごろですか? \_\_\_\_\_

場所はどのへんですか? \_\_\_\_\_市 \_\_\_\_\_区・町

何歳くらいの方が言っていましたか? ○をつけてください

\_\_\_\_\_年下 \_\_\_\_\_同年代 \_\_\_\_\_先輩 \_\_\_\_\_大人 \_\_\_\_\_老人

#### 参考文献

井上史雄(2009)『方言と地図 あったかい 47 都道府県の言葉』(フレーベル館)

井上史雄(2007)『変わる方言 動く標準』(ちくま新書)

井上史雄・鍵水兼貴(2002)『辞典<新しい日本語>』(東洋書林) p.29、p.60

加古 里子(2008)『伝承遊び考 4 じゃんけん遊び考』(小峰書店) pp.256-264 (特に pp.263-264 「しろくろじゃん」の項目)

佐々木香織(2012)「新潟市における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布」『新潟国際

情報大学情報文化学部紀要 第15号』(pp.15-24) <http://ci.nii.ac.jp/naid/110009040370>

田中千晶(1999-2004)ホームページ <http://homepage3.nifty.com/docchi/janken-p.htm> じゃ

んけん掛け声(二手に分ける)県別一覧表

『月刊言語』(大修館書店) pp.66-73

外山正恭(1999)『ことばの落ち穂一話しことばの資料集 1960-1998』(越佐の方言資料室  
松だんご)

都染直也(1999)「方言の近未来を予測するー兵庫県南東部方言のグロット部ラムから」

山田敏弘(2007)「岐阜・愛知の若年層方言について1ー遊びのことば・学校のことば・

オノマトペー」『岐阜大学教育学部研究報告人文科学第56巻第1号』(pp.11-41)